

聖書:ルカの福音書14章1～6節

説教:癒やしの主キリスト

はじめに

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎えて、いろいろな新しい計画を思い描いているでしょうか。あるいは、病気やけがをせずに無事に過ごすことができると願う方もおられるでしょう。頭の中に思い浮かぶことは様々ですが、信仰をいただいている者として、神を抜きにしてなにかを考えることはできません。新しい年の初めに、まず神のみことばに聞きたいと願います。

1 安息日に癒やすのは

1節。「ある安息日のこと、イエスは食事をするために、パリサイ派のある指導者の家に入られた。そのとき人々はじっとイエスを見つめていた。」

パリサイ派の人々は、イエスを罠にかけるために食事に招きます。「そのとき人々はじっとイエスを見つめていた」とあるのはそのことを表しています。ではどんな罠が仕掛けられていたのか。イエスの前には水腫をわずらっていた人がいます。何らかの原因でからだ全体が慢性的にむくむような病気で、一目見ただけでそれとわかります。その人の前にイエスが座ります。これは偶然ではなく、パリサイ派の人々が仕掛けた罠でした。もちろんイエスはそのことをわかっています。彼らの策略を見抜いて、このように問いかけます。3節。「安息日に癒やすのは律法にかなっているのでしょうか、いないのでしょうか。」パリサイ派の人々はモーセの十戒の四番目にある「安息日にはいかなる仕事もしてはならない」というみことばを盾にして、命に関わらない病気やけがの治療は労働にあたるので、安息日にはやってはいけないと教えていました。それはほんとうに正しいことなのか、それとも間違っているのか、イエスは問いかけるのですが誰も答えません。

2 罪を赦すイエス

そこで4節。「彼らは黙っていた。それで、イエスはその人を抱いて癒やし、帰された。」

イエスは二つのことをしています。一つは抱いて癒やした。二つ目は「帰した。」短いことばですが、ここには大切なことが詰まっています。私たちはからだの調子が悪くなると病院に行きます。まず検査をして医師が診断し、治療していく。そういう

流れです。ところが聖書によれば、病気になる究極の原因は罪であると言われます。この罪を解決しないと健康になれない。ところが病院でCT,MRI,PETなど、どんな検査しても罪は画像に写りません。仮に写ったとしても病院では治せません。治せるのはイエスだけ。ではイエスはどうやって癒やすのか。超能力かなにかでしょうか。聖書には「その人を抱いて」とあります。そのとき何が起きたのでしょうか。ヒントは次のことばです。「帰された。」このことばは「赦す」と同じ。ですからこう訳することもできる。「イエスはその人を抱いて癒し、罪を赦された。」

病気となる真の原因は罪であると言いました。罪が赦されたので、この人の病気が癒やされた。そのような順番です。さて、「病気が治って、よかった」と喜ぶのはいいのですが、ではこの人の罪はどこに行ったのでしょうか。私は勝手に「罪保存の法則」と呼んでいます。誰かの罪が赦されたとしても、その罪は必ずどこかに保存される。消えてなくなる。いったいどこに行ったのか。イエスがその人を抱きながら、その人の罪を引き取りました。そんなふうにして私たちの罪を背負われました。

それはそうだとすると、疑問が残る。ここは、人々が罠を仕掛けて待っているようなときです。そんなときに、わざと地雷を踏むようなことをさなくてもよいのではないか。もっと安全なときに、この人を癒やしても遅くはないのではないか。

3 すぐに

5節。「それから、彼らに言われた。『自分の息子が牛が井戸に落ちたのに、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者が、あなたがたのうちにいるのでしょうか。』」

「すぐに」ということばが鍵になります。パリサイ派の人々は水腫はすぐに癒やす必要がないと考えた。しかしイエスはそうではない。自分の息子が井戸に落ちたときと同じくらい、緊急のことなのです。イエスの目には、私たちはまるで井戸に落ちて今にも死にそうに見えているのです。明日まで待つどころか、いますぐ引き上げて救わなければならない。そんな風に見える。だから、自分を憎むパリサイ派の家であろうが、人々が罠を仕掛けて狙っているように、そんなことよりも、いま

すぐ助けなければとイエスは駆けつけていく。そのことに気がつくようにと、イエスは、自分の息子が井戸に落ちたらあなたがたはどうするか、と問いかけて考えさせます。イエスは、たまたま井戸の例を挙げたのではありません。ここに大切なヒントがあります。井戸に落ちた者を引き上げるにはどうすると思いますか。つい数日前のことですが、ニュースを見ていたら、インドで実際に井戸に子どもが落ちたという事件があったそうです。防犯カメラにその一部始終が記録されていました。その映像を見てみると、父親がすぐに駆けつけてきて、ロープを手にして井戸を降りていきました。しばらくすると、落ちた子どもがロープで引き上げられて助かった。大人であればロープを下ろせば自力で上がってこられるかもしれない。しかし子どもには無理です。やっぱり誰かが降りて行かなければなりません。

私たちもこれとよく似ています。罪という井戸に落ちてしまって、そこから出られません。そこから救われるためには、いますぐだれかが井戸に降りてきてもらわなければならない。誰ですが。イエスが降りてこられました。それで私たちは救われました。では、イエスはどうなったのでしょうか。井戸から上がったのでしょうか。いいえ。井戸の中で死んで行かれます。

私たちは、罪という井戸からこの方によって救い出され、罪という病から癒やしてもらいました。その恵みを覚えながら、主を仰ぎ見つつこの一年も歩んで参ります。